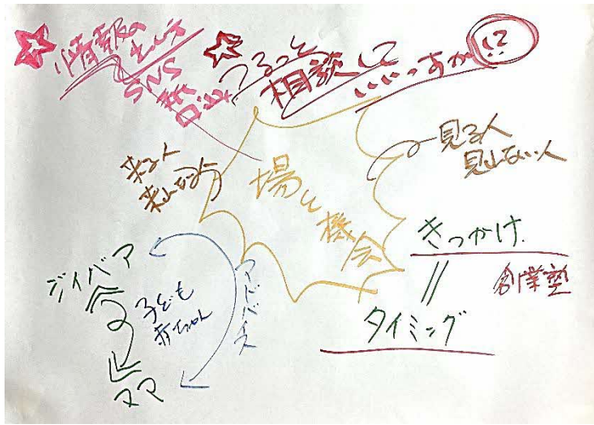
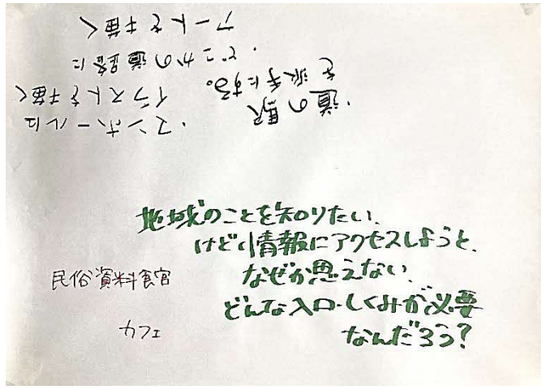
＃はつかいち みらい作戦会議　ウェルビーイングの始め方　第１回　　「学びを応援する」　～未来の廿日市市にあったらいい場やしくみ～　　2024.8.24

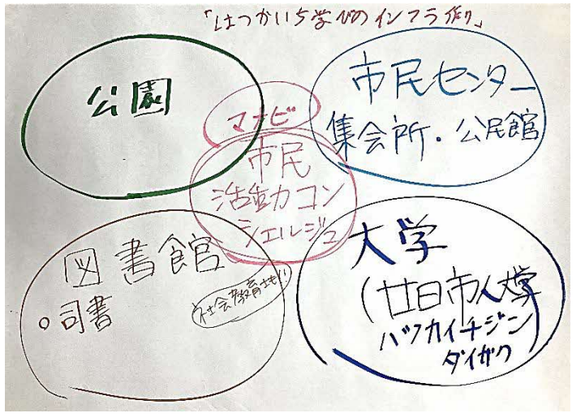
さまざまな価値観、ライフステージのみなさんの「興味のあること、やっていきたい・学びたいこと」からスタートし、未来の廿日市市に「あったらいい場やしくみ」について、アイディアや提言をまとめました



今日のような場と機会＝こういうチャンスを獲得できるように情報をうまく出したい。堅苦しい場所でなく気軽にやりたいことの相談にのって欲しい。「きっかけ」や「タイミング」がうまくはまるような場と機会のもちかたがあればいい（メンバー２人は創業塾をきっかけに参加）。世代間交流では、シニアとママたちが、子どもや赤ちゃんを間にお互いが交流できて満足できるようなものが作れるといいな。

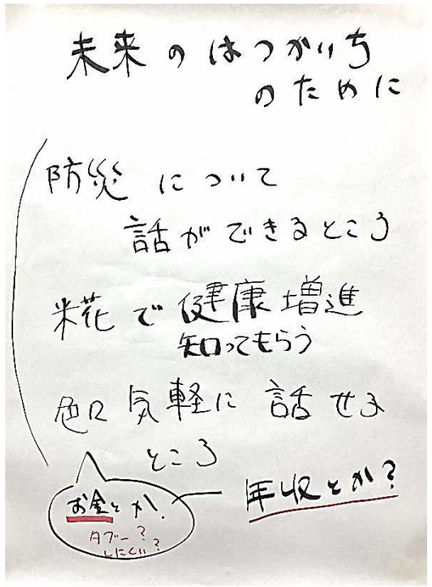


地域を目立たせるために、地味なイメージのするマンホールにイラストを描いたらいいな。（本日唯一の高校生の意見）

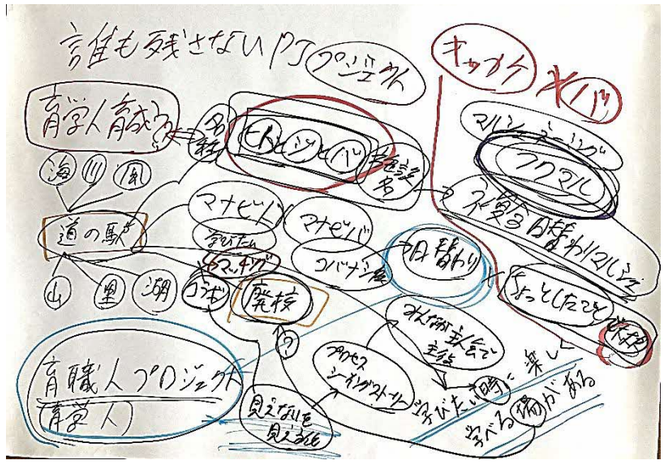


公園、市民センター、図書館などの場やスペースと妄想の「廿日市人大学」（例えば市民ホール、看護大の中、生涯学習課など）の場でどこでも学べる。その中央にワンストップの「学びの支援活動コンシェルジュ」をおいて、教えたい人を学びのプロフェッショナルとして登録制にしたり、学びたい人に学べる場所を紹介したりする人がどこかにいて欲しい。（太極拳の先生、おもちゃドクター、国際交流などの活動をしているメンバー）

子どもの居場所づくりの横で高齢者が麻雀をしている。高齢者と子どもたちで一緒に何かできないか、つなぐことができないかと悩んでいる。世代間とか隣同士でやっている「壁」をぶっ壊す、数字の３は「三世代オール」の意味。

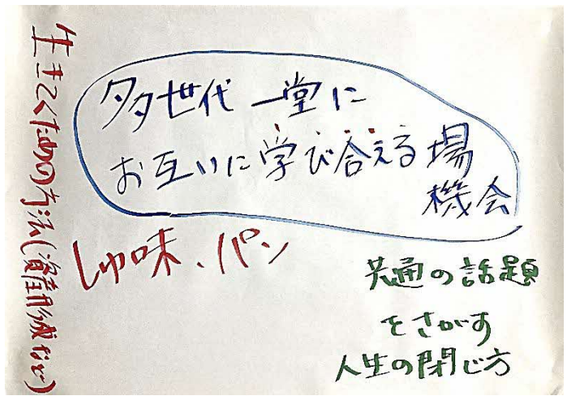


未来のはつかいちのために、防災のこと、健康によい糀のこと、タブーとして話しにくいお金（年収とか）のことなどを、「気軽にお話できる場」があればいいな。



「誰も残さないプロジェクト」　道の駅と廃校を活用して複合施設『ヒトジバ』を作り、ミナガルテンのモデルで複合日替わりマルシェ『フクマル』をやって、みんなが主人公になる。育学人（育てる学ぶ人の育成）プロジェクトと育職人（職を育てる、子育てや教育領域のアントレプレナーを参考に）というプロジェクトで、世代から世代への世代交代を目的とするコミュニティ型の複合施設を作ったら面白いのでは？

廿日市には神社仏閣がたくさんあるので、場所を生かしたダンスのイベント、たくさんある空き家をリノベーションして配信の講座をしたり市外の人と繋がったり、古民家で保護犬や保護猫を飼えたらいいな、といったいろいろな案がでた。



30～70 代のメンバーで、生きていく中での資産形成、防災、人生の閉じ方などの話題。多世代で話すのは楽しく、お互いに気づきがあり学び合える。場をつくるだけだとそれぞれの目的があるため交流が難しい。交流する機会をつくるのが大事で、ツールとして趣味（パンとか）や共通の話題があるといいのではないか。